

コミュニティにおける日常生活 Risk への対応
ーセーフコミュニティにおけるレジリエンス機能に着目してー

○ 名寄市立大学 長谷川武史 (会員番号 7118)

キーワード3つ: 日常生活 Risk、セーフコミュニティ、レジリエンス

1. 研究目的

利害関係が重層的に様々につながり絡み合う今日の社会において、その中で発生する生活環境を大きく変えてしまう日常生活上の Risk 事象に対して、どのような姿勢を取り、事前に想定した地域環境を作っていくためには、多大な課題や障壁が存在する。そのためにはどのような Risk 事象が地域や日常生活に内在しており、あるいは発生する可能性があるのか。またその Risk 事象への取り組みに対して、実際に効果的な対処法を用意するためには、利害関係者がどのように対処し向き合うかを共有すること（リスクコミュニケーション）が求められる。

地域生活に存在する全ての Risk 事象に対して、その対処策を持ち合わせるということはおそらく不可能である。しかし、想定し得る範囲においてどのような対処が求められるか、その共通認識によって Risk 事象への対処に当たることは可能である。

このリスクコミュニケーション概念を踏まえた共通認識により地域の安全促進を図っていく取り組みがセーフコミュニティ¹である。

本研究では、セーフコミュニティにおける Risk 事象への取り組みと、Risk 事象発生時のレジリエンス(回復力・復元力)をどのように保持可能かの検討を行う。

2. 研究の視点および方法

本研究では、国内のセーフコミュニティの活動を中心に、Risk 事象への対処機能の検討と、そこから想定される Risk 事象への対処について、各セーフコミュニティがどのようにそれぞれのコミュニティのバルネラビリティ(脆弱性)を踏まえたレジリエンス(回復力・復元力)機能をコミュニティに付与してきたのか、セーフコミュニティの認証過程からその整理を試みた。

3. 倫理的配慮

本研究は主に文献研究で行っており、日本社会福祉学会の「研究倫理指針」を遵守し引用文献および事例を使用している。

¹ セーフコミュニティとは、全ての年齢、両性、地域を包括した、傷害や暴力、自殺の発生予防、および自然災害の重度化防止などの安全促進活動が機能している、地方自治体、州、都市のことである。

4. 研究結果

セーフコミュニティを持続的に推進するにはその地域における安全・安心への意識の形成と持続が重要となる。そのため、行政主導のトップダウンによる取組みだけではセーフコミュニティは出来ず、住民側からの地域づくり参加が必要になる。コミュニティ基板での対策、コミュニティの文化を変容させていくことがセーフコミュニティ導入には求められていた。

また、その一連の過程の中で、そのコミュニティにおける社会・経済・文化的特徴のどこに Risk 事象を悪化させる要因(バルネラビリティ)が存在するのかを認識し、それに基づくコミュニティ内の繋がりやコミュニケーションによって、Risk 事象への対処として発生低下や被害の低減を図っていくレジリエンスの獲得が、セーフコミュニティの取組みには存在している。

5. 考察

セーフコミュニティは「安全なコミュニティ」を示すものではなく、「地域社会の安全の向上に取り組んでいるコミュニティ」の状態である。特定の地域課題に対し、住民間に明確な問題意識・解決志向を養成・維持していくことで、安心・安全な地域環境作りを図ることを目的としており、国内のセーフコミュニティはそれぞれの地域特徴を踏まえた体制を図っている。特定の Risk 事象に対して、そのコミュニティに参加している住民間が共通の問題意識を形成することで、Risk 事象への対処策を獲得する(Risk 事象発生の際の対処力=レジリエンスの獲得)というものである。

コミュニティにおけるレジリエンス概念は、地域の連携力、コミュニケーション能力、問題解決力等を意識していくための概念であるが、セーフコミュニティにおいては、その存在目的自体に、Risk 事象発生に対するレジリエンス機能を有するコミュニティ形態であることを確認した。

また、セーフコミュニティを目指す過程の中で、コミュニティ内にどのような Risk 事象が存在し、それに対するバルネラビリティ(Risk 事象を発生・悪化させる要因)が存在しているのかを地域住民が理解して初めてセーフコミュニティとしての対策を講じる段階に至る。その視点は、一般的な Risk 事象への対処過程であるリスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションが包含された状態であり、セーフコミュニティはコミュニティ内で発生する Risk 事象に効果的に対応できる新たな形であると考えられる。

セーフコミュニティ認証における取組みによって、レジリエンスの獲得が行われているが、それらを継続的に維持していくことが出来るかは、また新たな課題である。コミュニティメンバーである地域住民の意識が重要であり、如何に文化として根ざしていくことが出来るのか、その視点や方法を検討していくことが今後の課題である。